

<第2回>

会長の時間

平成25年7月11日

【宇部ロータリークラブの誕生；胎動期】パートI

本日は、我が宇部ロータリークラブの誕生に関する逸話・秘話をお話ししたいと思います。大多数の諸先輩方は、ご承知おき頂いておりますが、いわゆる、入会3年～5年未満の会員の方も大勢いらっしゃいます。特に本日のお話は、胎動期のご苦勞ばなしで御座います。なお、大先輩方のご芳名を記載のまま、お読みいたしますので、ご容赦・ご勘弁の程、お願い申し上げます。

元々は、昭和11年頃かと思うが、大阪クラブの当時のガバナー村田省蔵氏、引き続き神戸商高の田崎慎治先生から、宇部にもロータリーをつくったらどうか、将来国際的に発展しようとするなら是非ロータリークラブを結成するが良いと強力な誘いがあった。この話は、会員国吉省三が両先生と深い関係があり、当時国吉は創立間もない宇部窒素工業会社の常務をしていたので、その努力によってクラブを結成させようとする意図があったと思われる。国吉は俵田社長にそのことを通じて話しあったが、ロータリークラブについての認識も充分でなかったし、果たして相当数の会員が集まるかどうかも覚束なかった。其の為に一応時期尚早ということで折角の好意を空しゅうした。当時田崎先生から戴いたロータリー文献が今日もなお残っているが、恐らく宇部の地域にロータリーの話を持ったのはこれが最初の機縁であろう。

昭和11年と言うと、二・二六事件勃発・宇部では、第1回港まつり開催・日本初のセメントタンカー「清忠丸」浸水・新川（現、渡辺翁記念会館前）に渡辺祐策の銅像設立し除幕・チタン工業が創立・宇部時報が創刊4000号、25周年の節目を迎えた。…と、この様な時代背景でご座いました。

それから、時移りて昭和30年から31年初頭に山口クラブの菅博太郎氏（当時山口県信用保証協会の専務理事、其の後、全国保証協会の理事となって東京に移られた）が、度々俵田社長に会ってロータリークラブ結成の促進が企てられ、福岡クラブの松田昌平氏も加わって熱心に勧誘された。当時は県下においても下関・徳山・山口にはすでにクラブが結成されていたので発展途上にある宇部としても聞き捨てにする訳にも行かぬので、31年の春頃、俵田社長は中安専務、国吉を招いていろいろ相談があり、定款の検索、会員の顔ぶれなど下話

を進めるようになった。

その結果は 30 人余りの会員はできそうであるから、先輩の援助指導の下に運営すれば人並みのことはできようとの確信を得て、菅、松田両氏の肝煎りで結成の本格的準備を進めるようになった。この間、菅、松田両氏には度々宇部に足を運んで頂いて容易ならぬご苦心をおかけしたが、大体の構想も煮詰まったので正規に発足することになり、設立総会を開催し、仮クラブとして発足することができた。

かくして、1956 年（昭和 31 年）7 月 10 日元宇部商工会議所に於いて俵田 明会長及び国吉省三幹事で宇部ロータリークラブの創立総会が開催され、37 名のチャーターメンバーに 2 名の名誉会員を加え 39 名で発足した。当クラブは山口、下関、徳山に次いで県下 4 番目のクラブであった。

それ以来 7 月 10 日が宇部ロータリークラブの創立記念日となっている。

という事で、昭和 31 年、当時の宇部商工会議所（現、大林スポーツ近く、国道 190 号線右カーブ付近）で創立総会が開催され、目出度く産声をあげ、昨日 7/10 をもって、宇部ロータリークラブは、57 歳と成りました。先人の偉業に感謝申し上げ会長の時間とさせていただきます。

…今日もロータリーライフをお楽しみ下さい。…

宇部 RC の創立記念日を祝い乾杯しましょう！